

問1 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇の後とし、その間に生まれた子を安徳天皇として即位させることで、天皇の親戚（外戚）として権力を強めました。このような平氏の政治手法は、かつて平安時代中期に摂政や関白となって実権を握ったどの家系の手法を模したもののといえますか。 （2021年 福岡県公立入試 類似）

1. 藤原氏 2. 蘇我氏 3. 足利氏 4. 北条氏

問2 9世紀末に遣唐使が停止された後、それまで取り入れてきた唐の文化を日本の風土や生活に合わせて消化し、洗練させた日本独自の文化を何といいますか。 （2017年 香川公立入試 類似）

1. 国風文化 2. 天平文化 3. 弘仁・伴野文化 4. 化政文化

問3 平安時代中期の地方統治において、朝廷が国司に強い権限を与えるようになった歴史的な背景として、正しいものはどれか。 （2016年 広島公立入試 類似）

1. 戸籍に基づき土地を分ける班田収授の仕組みが行き詰まり、国司に徴税を請け負わせる必要が生じたため。 2. 鎌倉幕府が守護・地頭を設置したため、対抗措置として朝廷も地方行政を強化する必要があったため。 3. 大規模な海外貿易が始まったことにより、港を持つ地方都市を直接管理する官吏が求められたため。 4. 刀狩や検地が行われたことで兵農分離が進み、武士ではない専門の行政官が必要になったため。

問4 平安時代の文化において、和歌や物語などの文学が飛躍的に発展し、「古今和歌集」のような優れた作品が生まれた背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2026年 岐阜公立入試 類似）

1. 漢字を崩した「かな文字」が使われるようになり、繊細な心情や感覚を表現できるようになったため 2. 遣唐使を通じて最新の中国文学が大量に輸入され、漢詩による創作活動が貴族の主流となったため 3. 武士が政治の実権を握り、質実剛健な気風を重んじる新しい文芸様式が確立されたため 4. 印刷技術が普及したことにより、それまで貴族のものだった文学が庶民層へ広く浸透したため

問5 1068年の後三条天皇の即位から、1156年の保元の乱が起こるまでの期間、特に白河上皇によって進められた政治について、その具体的な仕組みとして最も適切なものはどれですか。 （2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 天皇が位を譲って上皇となり、独自の役所を設けて摂政や関白の力を抑えながら政治を行った。 2. 自分の娘を天皇の後とし、その子供を次の天皇に立てることで、外戚として実権を握った。 3. 武士として初めて太政大臣の地位に就き、日宋貿易による経済力を背景に政治を主導した。 4. 征夷大將軍の地位を得て鎌倉に幕府を開き、各地に守護や地頭を配置して支配を広げた。

問6 日本の歴史における「奈良時代」や「平安時代」といった名称は、どのような視点に基づいた時代区分ですか。最も適切な説明を選びなさい。 （2026年 山梨公立入試 類似）

1. 政治の実権を握る組織や施設が置かれた場所に基づいた区分 2. その時代を通じて使われていた元号に基づいた区分 3. 当時の人々の生活様式や代表的な文化の特徴に基づいた区分 4. 社会を支えていた主要な産業や経済の仕組みに基づいた区分

問7 平安時代、遣唐使が廃止されるなど対外関係が変化した時期と重なるように、地方では「国司」による統治のあり方が問題となりました。国司が地方政治の混乱を招いた背景やその実態について述べた文として、正しいものを選んでください。 （2024年 富山公立入試 類似）

1. 朝廷が徴税の権限を国司に委ねたため、一部の国司が私欲のために過酷な取り立てを行った。 2. 朝廷が地方豪族を国司に任命する方針に切り替えたため、各地で土地争いが激化した。 3. 遣唐使の廃止によって外国との貿易が途絶えたため、国司の主な収入源がなくなった。 4. 国司が土地の国有化を厳格に進めたことで、自墾地系荘園を所有する農民が反発した。

問8 平清盛の娘である徳子が天皇の後となり、その子が安徳天皇として即位したという関係は、かつて藤原道長が娘を一条天皇の後にした関係性と共通しています。このような、天皇の母方の親族として政治の実権を握る仕組みを説明する言葉として適切なものはどれですか。 （2021年 歴史公立入試 類似）

1. 天皇の外戚（がいせき）となつて、政治を動かす権限を持つこと。 2. 天皇の執権（しっけん）となつて、軍事的な指揮権を独占すること。 3. 上皇として院政（いんせい）を行い、天皇の代わりに実務を担うこと。 4. 下地中分（したじちゅうぶん）を行い、土地の支配権を天皇と分けること。